



聞こえにくい子を指導する方に知ってほしいこと

長崎県立ろう学校
自立活動部 地域支援班
2024.1 vol.22



日々の生活に役立つアプリケーション

教育現場はここ数年で、一人1台端末支給を始めとしたICT化が進み、より個別に情報機器を活用できる環境が整ってきています。今回は聴覚障害のあるお子さんたちの情報保障や、日々の取組に役立てられるようなアプリケーション（以下：アプリ）を二つ紹介します。

1 情報保障のためのツール：「音声文字変換アプリ」「文字起こしアプリ」

相手の話している音声が文字として表示されるアプリです。聞こえづらい聴覚障害者にとっては、相手の話を聴くということは、おぼろげに聴こえた音声に、話者の口形や表情ジェスチャーなどを、総合的に判断してその意図をくみ取らなければならず、とてもエネルギーを使います。また、聞き分けられない言葉があると、推測する時間がかかったりして、話の流れが分からなくなり、たくさんの情報を聞き逃してしまうこともあります。そのような状況に対して情報を保障するためのツールが「音声文字変換アプリ」や「文字起こしアプリ」と言われるものです。



アプリの一例（基本的な機能は無料で利用できます）



こえとら



YYProbe



UD トーク



Google 音声文字変換 & 音検知通知

「文字起こしアプリ」は基本的に録音したものをまとめて文字に変換することを目的として開発されましたが、現在では「音声文字変換アプリ」も「文字起こしアプリ」も、どちらもリアルタイムに音声を文字に変換することができます。

また、これらは、聞こえにくい子の発音を確認することにも活用できます。周囲が不明瞭な発音に慣れて聞き取ってくれていると、どの発音が伝わり、どの発音が伝わらないか、本人が意識しづらくなります。客観的に自分の発音を確認し、日々のコミュニケーションに生かすことができます。



気を付けたいことは、アプリを使えば全てが解決するわけではないということです。話し合い活動でのルール設定などの環境の調整や、児童生徒の語彙の増加や読解力の向上など、困難さに対する様々なアプローチの継続は必要となります。

2 社会的な自立の一助となるツール：「電話お願い手帳」アプリ版



電話お願い手帳

スマートフォン等で、何か困ったときに周囲の人に助けを求めることができるアプリです。聞こえにくい人は、急な状況変化を把握し、臨機応変な対応をすることに高いハードルがあります。警察や救急車を呼ぶときはもちろん、道が分からないとき、急な用事があり電話で連絡を取りたいとき、また、地震などの災害が起きたときやJRが遅れている状況を知りたいときなど、困ったときにすぐに使えるアプリです。ダウンロードしておく、いざというときに安心です。



上のスクリーンショットのように、必要な情報の項目に入力したものを相手に提示し、依頼をします。下の左のQRコードからアクセスし、使い方「電話お願い手帳操作マニュアル」を読んでみてください。右はアプリのダウンロード先です。

<p>①QRコードからアクセス</p> <p>電話お願い手帳WEB版、フィーチャーフォン版のトップページにアクセス</p>  <p>■WEB版 http://www.ntt-west.co.jp/kouken/torikumi/denwaonegai_web/</p>  <p>■フィーチャーフォン版 http://www.ntt-west.co.jp/kouken/torikumi/denwaonegai_web/mobile/</p>	<p>アプリのダウンロードはこちら</p> <p>iPhone/iPad の方は</p>  <p>からダウンロード</p>  <p>Android の方は</p>  <p>で手に入れよう</p>   <p>電話お願い手帳</p> <p>< https://www.ntt-west.co.jp/kouken/torikumi/denwaonegai.html >より引用</p>
---	---

気を付けたいことは、一度ダウンロードしただけでは、いざというときにうまく利用することができないということです。起こりうる場面を想定しながら、児童生徒本人が一人で使いこなせるようになっておくことが大切です。避難訓練やその他の日々の指導の中で、定期的に使い方を確認しておきましょう。

3 さいごに

障害のある児童生徒は、困った場面に遭遇しても、声を掛けてもらったり手伝ってもらったりするまで自分から行動できないことがあります。これらの背景には、自分から何かを依頼する経験の少なさや、コミュニケーションに対する自身のなさが存在しています。日々の指導の中で、このようなツール等をきっかけに、「この方法なら自分もできる」というような経験を重ね、自主性、主体性を伸ばすことにつながることを期待しています。

具体的な指導の場面での心得ておきたいことについては、過去の「みみうち 2023 Vol21」を併せて読んでいただければと思います。